○株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領株主確定日	3月31日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部 〒137−8081 新東京郵便局私書箱第29号 TEL 0120−232−711（通話料無料）
上場証券取引所	東京証券取引所（スタンダード市場）
公告の方法	電子公告により行う ［公告掲載 URL］ https://www.hayashikane.co.jp/ （ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。）

（ご注意）

1.株主様の住所変更、買取請求・買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2.特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合わせください。
なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3.未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

Hayashikane

〒750−8608　山口県下関市大和町二丁目4番8号
TEL（083）266−0210　FAX（083）266−1266

ホームページのご案内

林兼産業株式会社 Topページ
https://www.hayashikane.co.jp/

詳細はこちらの
QRコードから
お願いします

林兼産業株式会社 IR情報ページ
https://www.hayashikane.co.jp/ir/

ミックス
責任ある木質資源を使用した紙
FSC® C022915

VEGETABLE OIL INK

この報告書は、FSC®認証紙と、環境に優しい植物油インキを使用して印刷しています。

With you

第83期

株主通信

2021年4月1日～2022年3月31日

Index

業績サマリー …… 01
社長から皆さまへ …… 02
セグメント概況 …… 03
トピックス …… 04
インフォメーション …… 05
財務諸表（要約） …… 07
会社概要 …… 09

Hayashikane

証券コード 2286

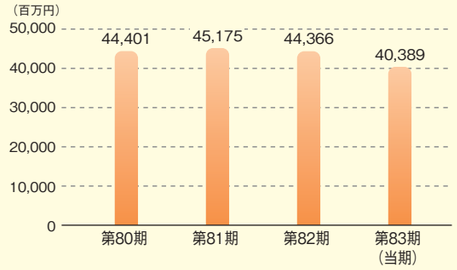
業績サマリー

財務ハイライト

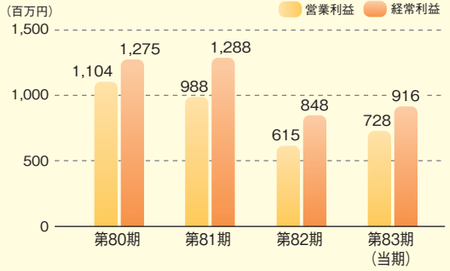
	第83期	第82期	前期比増減
連結売上高	40,389百万円	44,366百万円	— %
連結営業利益	728百万円	615百万円	18.3%
連結経常利益	916百万円	848百万円	8.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	707百万円	1,291百万円	△45.2%

当連結会計年度の期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を適用したことにより、売上高の前期比増減（%）を記載しておりません。

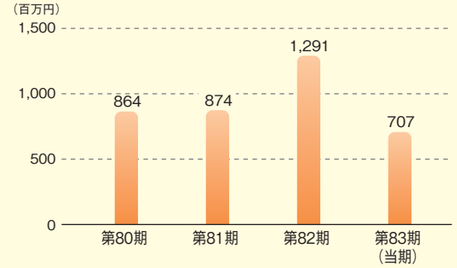
○連結売上高



○連結営業利益 / 経常利益



○親会社株主に帰属する当期純利益



○連結総資産 / 純資産

社長から皆さまへ

株主の皆さまに第83期株主通信をお手もとにお届け申しあげるにあたりまして、日ごろのご愛顧とご支援に厚く御礼申しあげます。

当期の経営成績

当連結会計年度の当社グループの売上高は、肉類および養魚用飼料の販売数量が減少したことにより、403億89百万円（前期は443億66百万円）となりました。損益面におきましては、水産物相場が堅調に推移したことや採算性を重視した取引に努めたことにより営業利益は7億28百万円（前期比18.3%増加）、経常利益は9億16百万円（前期比8.0%増加）となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は、前期に計上した特別利益（固定資産売却益）の反動により前期比45.2%減少の7億7百万円となりました。

なお、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を当連結会計年度の期首から適用しております。これによる売上高の減少額は18億10百万円でした。

経営計画

当社グループは、当連結会計年度までの「新中期経営計画〈挑戦〉challenge2022」（2021年3月期～2022年3月期）において、指標とした「自己資本比率30%以上」「ネットD/Eレシオ1.0以下」を達成しました。しかしながら、長引く新型コロナウイルス感染症拡大の影響から外食需要が低迷するなど、計画2年目においては売上高・経常利益ともに当初計画値を下回る結果となりました。

当社を取巻く原料事情は、今後も厳しい状況が続くものと思われます。当社は厳しい経営環境に対応するため、本年4月に「中期経営計画〈挑戦〉PhaseⅡ〈〈challenge2024〉〉」（2023年3月期～2024年3月期）を策定し、スタートさせました。これまでの中期経営計画と同様に変化を恐れぬ挑戦を継続し、経営資源の更なる選択と集中による構造改革を推し進めて収益力をより強固なものにするとともに、環境負荷の軽減（温室効果ガス排出量削減や地球温暖化対策）に努めるなど、事業活動を通じてSDGsの達成に貢献することを目指してまいります。今後とも一層のご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申しあげます。

2022年6月

取締役社長
中部　哲二

※「中期経営計画<挑戦>PhaseⅡ〈〈challenge2024〉〉」の詳細につきましては、当社ホームページ「中期経営計画」をご参照ください。
[https://www.hayashikane.co.jp/ir/managementplan/]

セグメント概況

［機能・食品事業］

○セグメント売上高

216億8百万円
前期比 ― %

セグメント利益 **3億51百万円**
前期比 **2.7%** 減

魚肉ねり製品は、中国向け輸出の落ち込みや国内販売の低調な推移により、販売数量が減少いたしました。

機能性食品は、機能性食品素材の国内向け販売が落ち込んだことにより、販売数量が減少いたしました。

ハム・ソーセージ等食肉加工品は、長引く外食需要の低迷により、販売数量が減少いたしました。

肉類は、豚肉の量販店への販売が低調に推移したことにより、販売数量が減少いたしました。

調理食品は、前期の巣ごもり需要の反動により、販売数量が減少いたしました。

なお、収益認識に関する会計基準等を適用したことによる売上高の減少額は、10億52百万円でした。

これらにより、売上高は216億8百万円（前期は244億42百万円）となり、前期を下回る結果となりました。損益面は、肉類の利益率改善があったものの魚肉ねり製品の販売数量が減少したことによりセグメント利益（営業利益）は3億51百万円（前期比2.7%減少）となりました。

［飼料事業］

○セグメント売上高

169億36百万円
前期比 ― %

セグメント利益 **11億50百万円**
前期比 **26.4%** 増

養魚用飼料は、養殖魚の在池量が減少したことにより、販売数量が減少いたしました。

水産物は、取り扱い量が減少いたしました。

畜産用飼料は、原材料価格高騰に対応した価格改定により、販売単価が上昇いたしました。

なお、収益認識に関する会計基準等を適用したことによる売上高の減少額は、7億57百万円でした。

これらにより、売上高は169億36百万円（前期は176億22百万円）となり、前期を下回る結果となりました。損益面は、水産物相場が堅調に推移したことによりセグメント利益（営業利益）は11億50百万円（前期比26.4%増加）となりました。

トピックス

「中期経営計画〈挑戦〉PhaseⅡ《challenge2024》」（2023年3月期～2024年3月期）を新たに策定いたしました。

基本方針　**持続的発展を支える事業基盤と収益体制の構築**

新中期経営計画では、これまで取り組んできた事業戦略をベースに、ESGの視点を取り入れることにより、地域社会とともに持続的に発展・成長する会社を目指してまいります。

また、DXへの取り組みを加速して業務プロセス・企業風土・ビジネスモデルの変革に発展させることで全社的な効率化を実現し、収益力の向上につなげることを目指してまいります。

challenge2024の事業戦略

成長投資の推進
- 成長事業の規模拡大に向けた集中投資
- 環境投資による持続的な発展
- 収益力向上につながるDX推進

事業ポートフォリオ
- 経営資源を食品事業と飼料事業に集中
- 成長分野への積極的な経営資源投入
- グループ会社間での人財交流

財務健全性
- 有利子負債の削減
- 適正在庫水準の明確化と在庫圧縮
- 指標の目標値：ネットD/Eレシオ0.8以下

コーポレート・ガバナンス
- 取締役会機能の実効性強化
- グループ経営を強化
- 人事制度の改定や従業員教育の充実による人財の活性化

ESGの視点 DXの取り組み

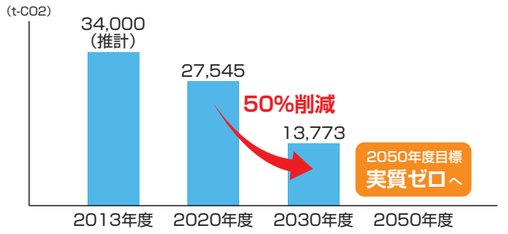
カーボンニュートラルの取り組み

CO2排出量を2030年度までに**50%削減**（2020年度比）

《challenge2024》期間中にまずは10%の削減を目指す

取り組み内容
- 太陽光発電設備の導入
- 省エネ効率の高い機器への設備更新
- 再生可能電力の調達
- LED照明への切り替え

その他、製品サイクルの各工程におけるCO2排出量を算定・把握することにより、排出量削減に効果的な対策を適時実施いたします。



霧島黒豚®は農場から食卓まで管理された安全・安心のブランド

～農場から食卓へ～

霧島山麓の大自然の中、自社グループ農場キリシマドリームファームで愛情豊かに肥育されるイギリス系バークシャー種の「霧島黒豚®」。きめ細かい肉質と良質の脂肪が特徴で、旨みと甘みのある美味しい黒豚に仕上げました。

霧島黒豚Premier
あらびきウインナー

霧島黒豚
焼肉パーティーセット

霧島黒豚オンラインショップを立ち上げました

霧島黒豚「黒豚丼」の
宣伝課長
平尾 敦です

詳細はこちらの
QRコードから
お願いします

霧島黒豚のインスタグラム公式アカウント

アカウント作成しました
いいね!フォローをよろしくぶー!

林兼産業は MARUHA NICHIRO ブランドをはじめ、国内・海外向けにフィッシュハム・ソーセージを製造しています

昭和29年（1954年）に下関の地で130gソーセージの生産をはじめて以来、半世紀以上にわたりフィッシュハム・ソーセージを生産しています。
今では、日本はもとより香港・中国にも出荷し、皆さまにご愛顧頂いております。

○主なマルハニチロ製品

ベビーハム

発売から60年を超えて愛される超ロングセラー商品です。さっぱりした風味の中にまぐろの旨みが広がります。

○主な海外向け製品

ママソーセージ

香港でも子どものおやつとして人気が高く、55年を超えて愛されるベストセラー商品です。

○地域密着

下関で作ったソーセージ

当社の80周年を記念して発売した魚肉ソーセージの詰め合わせセットです。「ふぐ」「あんこう」「うに」「いか」「くじら」の5つの味が楽しめます。

超高齢社会に対応した食事を通じ、医療・介護に貢献します

介護食ブランド『まごころキッチン』は、やわらかさに配慮した商品からスタートし、栄養素を強化した栄養機能食品や、介護食材へと広がっています。
病院・福祉施設を中心に全国で使用され、皆さまの心と体の健康を、食事面からサポートしています。

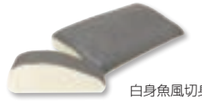
○主なラインナップ

高齢者ソフト食ソフミート

見た目の良い、おいしい介護食が簡単に作れる調理素材です。

やわらくマルシェ

「やわ」らかく誰でも「らく」に調理可能な調理食材です。


白身魚風切身

豚ロース風素材

行事用和菓子

行事や催事に最適な和菓子です。美しさ・季節感を大切にしました。

「まごころキッチン」のお問い合わせは 0120-158-608
コミュニティサイトで情報配信中 https://www.hayashikane.co.jp/mk-club/

財務諸表（要約）

連結貸借対照表

（単位:百万円）

科目	当連結会計年度（2022年3月31日）	前連結会計年度（2021年3月31日）
資産の部		
流動資産	13,385	13,633
固定資産	13,107	15,028
有形固定資産	8,758	10,437
無形固定資産	14	14
投資その他の資産	4,334	4,575
資産合計	26,492	28,661
負債の部		
流動負債	11,021	12,150
固定負債	5,703	6,271
負債合計	16,724	18,422
純資産の部		
株主資本	8,858	8,323
資本金	3,415	3,415
資本剰余金	6	8
利益剰余金	5,515	4,966
自己株式	△78	△66
その他の包括利益累計額	909	1,004
その他有価証券評価差額金	876	978
繰延ヘッジ損益	7	3
退職給付に係る調整累計額	25	22
非支配株主持分	—	911
純資産合計	9,768	10,239
負債純資産合計	26,492	28,661

連結損益計算書

（単位:百万円）

科目	当連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）	前連結会計年度（自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）
売上高	40,389	44,366
売上原価	34,531	37,700
売上総利益	5,857	6,665
販売費及び一般管理費	5,129	6,049
営業利益	728	615
営業外収益	340	373
営業外費用	152	141
経常利益	916	848
特別利益	200	840
特別損失	51	404
税金等調整前当期純利益	1,064	1,284
法人税、住民税及び事業税	250	432
法人税等調整額	57	△516
当期純利益	757	1,368
非支配株主に帰属する当期純利益	49	77
親会社株主に帰属する当期純利益	707	1,291

連結キャッシュ・フロー計算書

（単位:百万円）

科目	当連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）	前連結会計年度（自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）
営業活動によるキャッシュ・フロー	683	3,280
投資活動によるキャッシュ・フロー	18	47
財務活動によるキャッシュ・フロー	△737	△2,904
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	1
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△33	424
現金及び現金同等物の期首残高	1,976	1,551
現金及び現金同等物の期末残高	1,942	1,976

連結株主資本等変動計算書（2021年4月1日から2022年3月31日まで）

（単位:百万円）

	株主資本					その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	3,415	8	4,966	△66	8,323	978	3	22	1,004	911	10,239
会計方針の変更による累積的影響額			△16		△16						△16
会計方針の変更を反映した当期首残高	3,415	8	4,950	△66	8,307	978	3	22	1,004	911	10,223
当期変動額											
剰余金の配当			△132		△132						△132
親会社株主に帰属する当期純利益			707		707						707
連結範囲の変動			△11		△11						△11
自己株式の取得				△30	△30						△30
自己株式の処分		△2		19	16						16
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）						△101	3	2	△94	△911	△1,006
当期変動額合計	—	△2	564	△11	550	△101	3	2	△94	△911	△455
当期末残高	3,415	6	5,515	△78	8,858	876	7	25	909	—	9,768

個別貸借対照表

（単位:百万円）

科目	当事業年度（2022年3月31日）	前事業年度（2021年3月31日）
資産の部		
流動資産	12,480	11,446
固定資産	11,645	11,601
有形固定資産	7,283	7,171
無形固定資産	10	9
投資その他の資産	4,351	4,420
資産合計	24,126	23,048
負債の部		
流動負債	10,809	10,673
固定負債	4,607	4,258
負債合計	15,416	14,932
純資産の部		
株主資本	7,864	7,227
資本金	3,415	3,415
資本剰余金	3	5
利益剰余金	4,523	3,873
自己株式	△78	△66
評価・換算差額等	844	888
その他有価証券評価差額金	837	884
繰延ヘッジ損益	7	3
純資産合計	8,709	8,116
負債純資産合計	24,126	23,048

個別損益計算書

（単位:百万円）

科目	当事業年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）	前事業年度（自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）
売上高	39,629	44,282
売上原価	35,171	38,889
売上総利益	4,458	5,392
販売費及び一般管理費	4,050	4,964
営業利益	407	428
営業外収益	251	271
営業外費用	139	120
経常利益	519	579
特別利益	422	785
特別損失	14	182
税引前当期純利益	927	1,182
法人税、住民税及び事業税	135	299
法人税等調整額	△9	△420
当期純利益	801	1,303

会社概要

会社概要

設立年月日　1941年1月15日
資　本　金　3,415,020,145円
本　　店　山口県下関市大和町二丁目４番８号
　　〒750－8608　TEL(083)266－0210

沿　革

1941年１月　山口県合同缶詰(株)を設立
1947年６月　山口県缶詰(株)に社名を変更
1950年10月　日新缶詰(株)に社名を変更
1952年４月　下関飼料工場を建設
1955年１月　林兼産業(株)を合併し新社名を林兼産業(株)に変更
1959年８月　下関工場を建設
1962年５月　下関飼料工場を増設
1962年５月　株式を東京証券取引所に上場
1964年12月　本社社屋および研究棟を建設
1968年５月　下関第二工場を建設
1969年４月　林兼畜産(株)を設立、養鶏･養豚事業を同社へ移管
1970年６月　都城工場を増設
1976年２月　林兼冷蔵(株)を設立
1978年10月　林兼コンピューター(株)を設立
1986年11月　林兼ポートリー(株)、林兼ファーム(株)を設立し、林兼畜産(株)の事業を両社へ移管
1990年４月　林兼ポートリー(株)が林兼ファーム(株)を吸収合併
1991年７月　(有)平安海産を設立
1993年３月　長府工場(養魚用飼料)を建設
1996年12月　林兼フーズ(株)を設立
2000年１月　林兼ポートリー(株)が社名をキリシマドリームファーム(株)に変更
2006年10月　都城ウエルネスミート(株)を設立
2009年３月　(有)桜林養鰻を子会社化
2020年11月　コーポレートロゴを変更
2021年12月　太幸物産(株)を子会社化
2022年３月　グループ再編を実施
　林兼コンピューター(株)を連結範囲から除外
　林兼冷蔵(株)を持分法適用会社に変更
2022年４月　東京証券取引所スタンダード市場に移行

本社･事業所等

本　　社／〒750－8608 山口県下関市大和町二丁目４番８号
　TEL (083)266－0210
総　務　部　TEL (083)266－0210
人　事　部　TEL (083)266－0211
経　理　部　TEL (083)266－0214
経営企画室　TEL (083)266－0212
内部統制室　TEL (083)267－0347
品質保証部　TEL (083)266－0215

食品事業部／〒750－8608 山口県下関市大和町二丁目4番8号
　TEL (083)266－0221
業　務　部　TEL (083)266－0221
マーケティング部　TEL (083)266－0287
機能食品部　TEL (083)267－1837
加工食品部　TEL (083)266－0222
食　肉　部　TEL (083)266－0218
生産管理部　TEL (083)266－0221
下関工場　TEL (083)266－0221
都城工場／〒885－0021 宮崎県都城市平江町40号1番
　TEL (0986)23－1450
東京支社／〒103－0004 東京都中央区東日本橋三丁目10番14号
　サンライズ橘2F
　TEL (03)5640－1651
大阪支社／〒541－0054 大阪府大阪市中央区南本町三丁目4番7号
　第一住建 御堂筋本町ビル7F
　TEL (06)7660－2164

飼料事業部／〒750－8517 山口県下関市東大和町二丁目10番3号
　TEL (083)267－9125
下関飼料工場／〒750－8517 山口県下関市東大和町二丁目10番3号
　TEL (083)267－9125
長府工場／〒752－0927 山口県下関市長府扇町13番33号
　TEL (083)248－5423

役員一覧　2022年6月27日現在

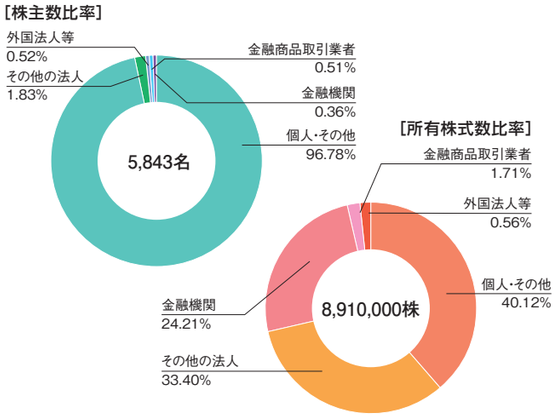
取締役社長（代表取締役）		中部　哲二
専務取締役	経営企画室担当兼総務部担当兼人事部担当	三代　健造
取締役（社外・非常勤）		岩村　修二
取締役（社外・非常勤）		牟田　実
取締役（社外・非常勤）		山尾　哲之
取締役	飼料事業部長	高田　啓吾
取締役	経理部担当兼品質保証部担当	宮﨑　一郎
取締役	食品事業部長	平野　斉
取締役	食品事業部長補佐（非常勤）	安部　克彦
常任監査役（社外・常勤）		中嶋　一貴
監査役（非常勤）		川崎　哲彦
監査役（社外・非常勤）		桑原　望
監査役（社外・非常勤）		三田村　知尋

株式の状況　2022年3月31日現在

発行可能株式総数 …… 20,000,000株
発行済株式の総数 …… 8,910,000株
単元株式数 …… 100株
株主数 …… 5,843名
（前期末比105名減）

大株主の状況（上位10名）

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
公益財団法人中部財団	751	8.54
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	725	8.25
マルハニチロ株式会社	565	6.43
株式会社恵比須商会	426	4.84
三井物産株式会社	375	4.26
株式会社松岡	360	4.09
日本生命保険相互会社	255	2.90
株式会社十八親和銀行	253	2.87
損害保険ジャパン株式会社	214	2.43
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	179	2.04

(注) 持株比率は自己株式(117,190株)を控除して計算しております。

所有者別分布状況